

プログラム名 (40字以内)	「こどく」と「こりつ」を地域の現場から変えていく「多世代コミュニティづくり体験」		
団体名/所属	一般社団法人えんがお		
活動区分	フィールドワーク体験活動	希望する選考方法	書類審査のみ
募集人数	4人	選考対象	大学院学生を含む
活動方法	現地活動のみ		
参加者に求めるもの	特になし(できれば孤老・孤立高齢者救済の基礎知識)		
活動期間	2025/8/21(木)～8/24(日)	主な活動予定場所	栃木県大田原市
プログラム実施の目的	現在の公的福祉制度には種々の制約があり、児童・高齢者・障害をもった方々を対象とするセーフティネットは一通りはあるものの、多くの課題を抱えている。 こうした課題克服は難題であり、様々なアプローチが考えられるが、本件の孤独・孤立の防止対策に軸足を置いた「えんがお」の取り組みは、各方面から高い評価を受けた効果的な高齢者福祉の新モデルである。 本プログラムでは、従来の「公助」の限界を克服しうる「共助」の働きを体験によって認識し、今後ますます深刻化するであろう高齢者問題に対する有益な知見を得ることが期待される。		
具体的な内容(800字程度)	高齢者・障害者への福祉活動が機能しなくなる大きな壁の一つとして、高齢者や障害者が「孤独・孤立」に追い込まれる状況がある。 この対策としては、大家族や近所付き合いの崩壊とともに失われた、日常的な人と人とのふれあいと心の絆を再生するアプローチは有効であると考えられ、この視点から現状の問題点を指摘すれば次のようである。 高齢者が身近に近親者・介護者のいない孤立化リスクを抱えるケースで、従来の行政の対応は、民生委員のようなスタッフによる監視と、いよいよ医療・介護が急を要する事態にいたって対処に着手する、といった後手にまわった対応が往々みられるところであり、これでは防止効果は疑問である。求められる改善の方向としては、 ①恒常的に孤立が続いてしまう環境からの救済 ②受け身でなく積極的に他者に働きかけられる主体性の回復 ③ヘルパー・専門スタッフの限られた組織でも1、2が実現できる仕組み作りが主にあげられる。 上記①～③を満たす改善されたセーフティネットとして「えんがお」では、 1 孤立・孤独リスクを抱える多くの高齢者が触れ合えるコミュニティを作る 2 コミュニティの中で相互が支え合う関係を作り、「役割の自覚」を醸成する 3 高齢者に対する聞き手、仲介者、潤滑剤として若い学生を活躍させる といったアプローチを講じている。 これらの取り組みに対して、意識の高い学生ボランティアの参加を期待するところは大であり、この目的で本プログラムの体験活動を募りたい。 <活動内容> ・高齢者の生活支援(掃除、買い物代行、会話)体験を通じて、地域の人々の共助や若者の成長が高齢者孤立化防止に効果的であるという福祉の発想を学ぶ ・孤立化リスクを抱える者同士が集まり触れ合うコミュニティがかえって当事者に主体性の発揮を促し、孤立化防止に効果的であるという共助による福祉の姿を体験し、ますます深刻化する高齢者増と独居老人増の社会問題の対処を考察する。		
【総額】参加するための費用	20,000円程度		
【内訳】参加するための費用(宿泊費)	1日4,000円×3泊＝12,000円		
【内訳】参加するための費用(交通費)	交通費:(参考経路)東京一宇都宮駅ー西那須野駅ー山の手1丁目 往復6,000円、現地移動費 2,000円程度。		
【内訳】参加するための費用(その他)	特になし		
奨励金額(予定)	16,800円		
備考	特になし		
活動に関する関係資料のダウンロードサイト			
応募団体を紹介するウェブサイト等(団体で応募の場合)	https://www.engawa-smile.org		
この企画に対する担当者(応募団体)の参加の有無	参加する		